

平成 29 年度 自己評価結果公表シート

学校法人清明学園

幼保連携型認定こども園せいめいのもり

1. 本園の教育・保育目標

<p>★ 子どもたちへ</p> <ol style="list-style-type: none">① たくましい体と思いやりのある心を持つ② 相手を理解し受け止めながら、自分の気持ちを伝えられるようになる③ 正しい考えを持ち、心が豊かな人間になる④ 気持ちの良いあいさつができるようになる <p>★ 園としての運営目標</p> <ol style="list-style-type: none">① こども中心・あそび中心の『こどもの城』を目指す～遊びが子どもを育てる。② 心温まる愛に包まれた保育を！～保育教諭は子どもの心のサポーター③ 立ち止まらず、先に目を向け意欲的に何事にも取り組む。④ 家庭との連携を怠らず、『共育』の推進を図る。（親の心の声を聞く努力＝信頼関係）⑤ 社会人、企業人としての自覚と言動。
--

2. 重点目標

こども中心あそび中心の『こどもの城』として、子どもの育ちの基本である『遊び』に没頭できる環境を重視することにより、集中力、協同性、意欲、創造性、忍耐等の様々な育ちを保障する。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
保育方針の保護者理解を深める	見学者や在園児の保護者に園長だよりや動画等の様々な情報によって、遊びの大切さや保育の質、今後について細かく伝えてきた。
子どもの様子を見取り適切な保育計画を作成する。	乳児部から年少への進級がスムーズに行えたことで、保育教諭同士の連携を密にする関係性ができた。また、多角的に子どもの育ちを見取ることによって理解が深まり、見通しを持った計画を作成することができた。
保育の質の向上のため、保育研究を充実させる。	道内外の出張に積極的に参加し、行事や保育内容の改善を図ることができた。また、道内外からの視察者が増え、いい刺激になった。
自然体験による育ちの支援	今年度も冒険クラブの協力で、親も巻き込んだ自然体験活動を実施できたことで、自然環境との共生の大切さを経験できる機会を持てた。

4. 具体的な目標や計画の総合的な評価結果

幼保連携型認定こども園として2年を経過し、徐々に保育教諭間の連携が進んできたが、勤務体制の違いから未だ時間の確保に検討を要すると感じた。ただし、乳児部、幼児部の双方とも、日々の保育に流されることがないよう、せいめいのもりで生活すること、日々の保育の在り方への疑問を深くとらえ、その都度検討をしてきたことで、行事の在り方や園内外の環境の整備、研修の在り方の改善が図られた。今後も子どもたちの育ちの保証はもちろん、保護者からも厚い信頼の下で保育ができる環境を全保育協教諭と職員で作りに上げていく努力を絶やさないよう心掛ける。

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
特別支援教育	支援の必要な幼児への対応のため人的環境を整え、効率と効果について考える。また各関係機関との連携を図り、保護者や幼児へ細かい対応を行う。
乳幼児の連携	保育教諭同士の情報共有や保育の連携の進め方について。

6. 関連事業

<p>○一時預かり事業の実施</p> <p>○地域への開放、子育て支援事業の実施 「かんがるーの日」～年7回 「あそぼうDAY」未就園児教室登録者対象～年各1回</p> <p>○未就園児教室「つぼみ組」火・木それぞれ～年19回ずつ</p> <p>○幼小の連携～北光・苗穂小学校との交流</p> <p>○中学生のインターンシップ受け入れ</p>
